

リフレッシュ理科教室決算報告書 (1/2)

2025 年 11 月 4 日

公益社団法人 応用物理学会
リフレッシュ理科教室 WG 代表者様

開催支部： 応用物理学会北海道支部
共 催： 北海道大学工学部(国立大学フェスタ 2025), 日本物理教育学会北海道支部, 電気学会北海道支部, 電子情報通信学会北海道支部
後 援： 札幌市教育委員会
開催責任者： 支部長 森田 隆二
開催連絡責任者： 庶務幹事 江上 喜幸
連絡先： 札幌市北区北 13 条西 8 北海道大学大学院工学研究院応用物理学部門 Email : y_egami@eng.hokudai.ac.jp TEL : 011-706-6729

以下のとおりご報告いたします。

事業名：リフレッシュ理科教室－北大会場－サイエンスオリエンテーリング in 札幌 2025			
リフレッシュ理科教室補助金額：350,000 円			
開催日：2025 年 10 月 18 日			
開催場所：北海道大学工学部			
決 算 (収入合計と支出合計は同額になります)		(単位：円)	
収 入		支 出	
リフレッシュ理科教室補助金	350,000	印刷製本費 (資料・チラシ作成等)	221,100
広告展示料	0	賃借料 (会場費・プロジェクター等)	0
支部からの支援金	143,378	会合費 (弁当代等)	85,401
企業からの協賛金	0	通信運搬費 (郵送料等)	82,430
助成金 (県・市など)	0	消耗品費 (実験材料・文具代等)	95,976
寄付	0	臨時雇賃金 【支払人数計 17 名】 (アルバイト賃金等)	100,000
他学会からの共催金		諸謝金 【支払人数計 18 名】 (講師謝礼等)	85,361
(一社)電気学会北海道支部	100,000	人件費	13,500
(一社)電子情報通信学会北海道支部	100,000	旅費交通費	2,240
		振込手数料	7,370
合 計	693,378	合 計	693,378

決算報告書は、支部(分科会)会計後 1 か月以内に応物事務局リフレッシュ理科教室担当宛まで各支部長・分科会幹事長に CC で共有の上メール添付 (WORD 形式) にてご提出ください(原本不要です)。講師謝礼金やアルバイト代については、支払人数を必ず記載してください。

リフレッシュ理科教室実施報告書 (2/2) (対面実施形式)

以下のとおりご報告いたします。

事業名：リフレッシュ理科教室－北大会場－ サイエンスオリエンテーリング in 札幌 2025

開催日：2025年10月18日

開催場所：北海道大学工学部

参加者人数

- ① 生徒・児童：高校生 1名, 中学生 2名, 小学生 55名, 幼児 3名
- ② 保護者・一般：54名
- ③ 教諭等：1名
- ④ スタッフ等：68名

内容

【実施概要】

本年度の「リフレッシュ理科教室－北大会場－」は、北海道大学工学部、日本物理教育学会北海道支部、電気学会北海道支部、電気情報通信学会北海道支部との共催および札幌市教育委員会の後援により、「おもしろ理科実験」と「施設見学」を実施した。地域の中学校・高等学校教員や科学サークル、大学研究室など多様な主体の協力のもと、児童・生徒を対象とした体験型理科イベントとして実施し、盛況を得た。参加者数は予定定員を大きく上回り、親子での参加も多く、科学への関心と学びの継続を促す有意義な機会となった。

【実施企画1：おもしろ理科実験】

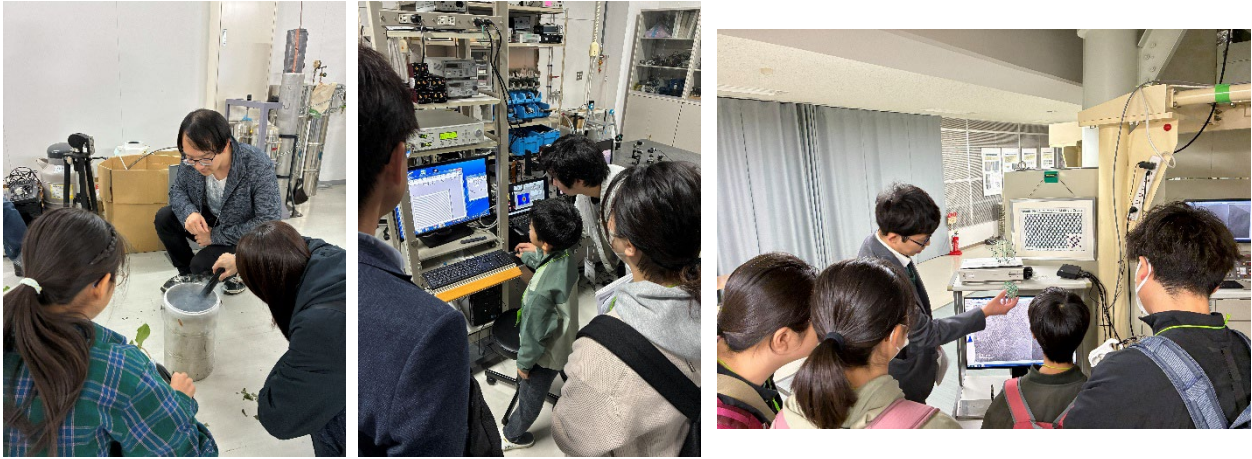
「おもしろ理科実験」では、20種目の体験型実験を実施した。講師として地域の理科教員や科学サークルが協力し、参加者は多様な実験や工作に熱心に取り組み、講師・学生・教員との交流を通じて科学の魅力を体感していた。アンケート結果でも「おもしろかった」「楽しかった」「勉強になった」との肯定的な回答が大半を占め、参加者の主体的な学びを促す効果が明確に示された。また、家庭での再現を希望する声も多く、学びの継続性が生まれている点が特徴的であった。さらに、札幌市立向陵中学校科学部の協力により、中学生が講師として2種目を担当し、来場者に実験を教える側として活躍した。参加生徒の約半数が女子であり、理系分野における男女共同参画の観点からも意義深い取り組みとなった。このような地域中学校との協働による運営は、次世代の理科支援人材の育成にもつながる有効な事例であり、今後も継続を予定している。



おもしろ理科実験の様子

【実施企画 2：施設見学】

北海道大学工学部の 5 研究室(ナノサイエンス、半導体、超伝導、超低温、レーザー)の協力を得て「施設見学」を実施した。普段は学生や研究者しか立ち入ることのできない研究現場に触れることができ、小学校高学年から中学生を中心に「研究の現場を実際に見ることができた」「将来こういう勉強をしてみたい」との感想が多数寄せられた。保護者からも高い評価を得ており、家庭での理科教育や理系進学への理解促進に寄与する企画として位置づけられている。大学という教育・研究の場で科学を体験することの意義が改めて確認され、北大会場における本事業の核となる企画として定着している。



施設見学の様子

【広報活動】

市内の学校・児童会館・科学施設へのポスター・リーフレット送付に加え、地元スーパーでの掲示や支部ウェブサイトによる告知を行った。その結果、申し込み開始からわずか 3 時間で定員を超える 130 名以上の応募があり、地域における児童・生徒向け理科イベントへの高い関心と需要が示された。アンケートによれば、参加者の約 6 割がポスターやリーフレットを通じて本イベントを知り、約 3 割が知人からの紹介で参加しており、広報活動が効果的に機能していることが確認された。

【参加者アンケート】

有効回答 112 件のうち、「期待以上」59%、「期待通り」41%、「期待以下」0%と非常に高い満足度が示され、「また参加したい」との回答が 98%にのぼった。自由記述欄でも運営上の改善要望は少なく、多くが「もっと体験したい」という前向きな内容であった。参加児童・生徒 58 名のうち約半数が女子であり、初等教育段階から理科・工学分野への関心を喚起する取り組みとして教育的意義が確認された。

【予算について】

近年の物価上昇に伴う資材費・印刷費等の各種コスト増加の影響を受け、赤字会計(支部からの支援金)は拡大傾向にある。今年度は、運営努力により、会場である北海道大学工学部から建物使用料の免除を受けるなど経費削減に努めているものの、十分な改善には至っていない。

本事業は、未来を担う子どもたちを対象とした科学啓発活動として、公益社団法人の理念に適う重要な取り組みであるとの支部長方針のもと、本部補助金で不足する分については支部予算から支援金を充てることで継続してきた。しかし、支部の財政にも限りがあり、北海道地区は大企業が少なく、協賛金などの外部資金を得ることが容易ではない。

加えて、アンケート結果では「また参加したい」「開催時間が短い」「もっといろいろ体験したい」との意見が多く寄せられており、今後は参加枠の拡大や実施時間の延長など、より充実した事業運営を検討している。これらの拡充を実現し、参加者の期待に応えるためには、現行の補助金規模では対応が困難である。

については、本事業の社会的意義と教育的効果を踏まえ、将来的な継続・発展のためにも、本部補助金の増額をご検討いただければ幸いである。

【総括】

本事業は、大学・地域・教育機関が連携し、児童・生徒が科学を身近に感じ主体的に学ぶ姿勢を育むことを目的とした理科教育振興の有効なモデルである。特に、中学生講師の育成的要素や大学研究室見学を組み合わせた構成は、他支部にとっても参考となる実践である。今後も継続的な開催を通じて、より多くの子どもたちが科学に触れ、将来の学びや進路を考えるきっかけとなるよう取り組みを推進していきたい。

実施報告書は、リフレッシュ理科教室開催後 1か月以内 に **応物事務局リフレッシュ理科教室担当宛** まで **各支部長**・**分科会幹事長** に CC で共有の上メール添付（WORD 形式）にてご提出ください(原本不要です)。